

今月のテーマ

点呼を活かして過労運転を防止しましょう

引き続き過労運転防止をテーマとし、今回は「点呼」のポイントを意識し直すことやドライバーさんとのコミュニケーションをしっかり取ることが過労運転防止につながることを再確認しましょう。

点呼のポイント

点呼では、顔つきなどの変化をよく観察することにより、運転者の前日の状況や疲労・健康状態などについて細かくチェックすることが大切です。

- ①基本的に**対面点呼**により、**運転者の顔つき、態度、言葉遣いの変化**などを観察し、変化が見られた場合、背景にどのような要因があるのかをつきとめ、**対応策を講じていく**が必要です。
- ②点呼時の質問は、毎回異なる質問をする、質問を長くするなどの**工夫が必要**です。運転者の反応がいつもより遅くないかなど、**詳細な観察**を行います。
- ③直前の睡眠時間、疾病の有無(持病のある場合においては現在の状態と通院の確認等)など、運転者の**身体的な健康状態**を把握するとともに、**精神的な面**においても悩みがないかなども把握することが必要です。
- ④長期の運行計画など、**対面点呼ができない場合**においても、テレビ電話など画像データを活用するなどして**疲労状態を確認するよう工夫**することが望まれます。

■過労の状態を、点呼時に「顔つき」でチェックしましょう



■参考図書：小和孝「現代人の疲労」紀伊国屋書店

点呼の確認ポイント

乗務前点呼	・運転者の健康状態、疲労の度合、飲酒の有無、薬の服用状況、異常な感情の高ぶり、睡眠不足などについて確認します。  運転者の歩き方、服装、顔色、口臭、目の動きなどをよく観察し、異常が感じられれば質問する。前日の状態と比較し、また質問に対する反応時間などを見る。
乗務後点呼	・その日の運行で、疲れが溜まっていないかを確認します。 ・翌日の運行に役立てるため、業務に応じた確認事項に加えて、休日・休暇等のアドバイスをします。 ・ヒヤリハット経験がなかったかを確認します。  乗務後点呼では、「お疲れ様」という心からのねぎらいが、運転者の励みや疲労解消になる。

自動車総合安全情報「トラック輸送の過労運転防止対策マニュアル」より

コミュニケーションの充実

運転者の変化に気付くためにも、日ごろから運転者と運行管理者の間のコミュニケーションをよくしておくことが必要です。

- ①運転者が疲労(眠気)や健康に関連した危険を感じたときに「**安全を優先**」した発言のできる職場環境を構築しておくことが必要です。
- ②運転者が過労、身体の異常などを電話などで**運行管理者に伝えやすい環境**をつくる必要があります。
- ③比較的時間の余裕のある乗務後の点呼は個室で着席により行い、**運転者と運行管理者のコミュニケーションを図る**などの工夫も必要です。

発行者

上杉行政書士事務所 代表 上杉 麻美
神奈川県横浜市旭区左近山16-1 1-30-806
TEL&FAX 045-442-3592

行政書士法人シグマ 代表社員 阪本 浩毅
東京都中央区銀座一丁目13番1号
ヒューリック銀座一丁目ビル4階
TEL 03-6868-7256 FAX 03-6800-3604

ご用命・ご相談がございましたらお気軽にお問合せ下さい

一般社団法人 運輸安全総研トラバス
Mail tb@trubus.org ホームページ <http://trubus.org/>

トラ
バス